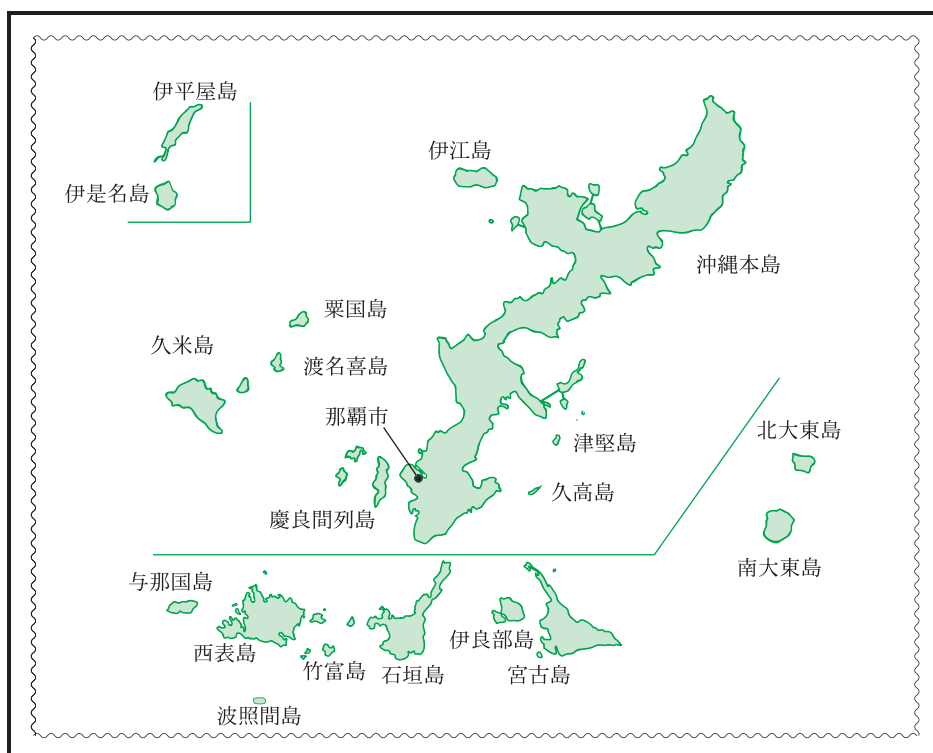




沖縄県小学校長会  
沖縄県中学校長会

第 81 号

会 報



も く じ

1. 活動を振り返って

校長がリーダーシップを発揮し  
学校教育の充実に資するチーム校長会  
沖縄県中学校長会 会長  
南風原町立南星中学校 校長 金丸利康 … 1

2. 特色ある学校づくり

- (1) 魅力ある学校づくりは、協働の職員体制づくりから  
豊見城市立座安小学校 校長 具志直哉 … 3
- (2) 特色ある三大取り組みで知徳体をバランスよく育む  
宮古島市立下地中学校 校長 濱川成共 … 5

3. 校長講話

- (1) 『伝わる』を意識して  
～視覚に訴え、言葉で仕組む～  
石垣市立大浜小学校 校長 仲皿涼子 … 7
- (2) 記憶に残る校長講話をめざして  
名護市立東江中学校 校長 島袋賢雄 … 9

今年度の活動を振り返って



## 校長がリーダーシップを發揮し 学校教育の充実に資するチーム校長会

南風原町立南星中学校 校長 金丸利康

### 一 はじめに

現代は、情報化社会（つまりSociety4.0）であり、今後、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society5.0）へとシフトしていく時代と言われています。

「予測困難な時代」であり、さらに新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明な中、社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのか、校長として学校経営をどう進めて行くのかが問われています。

昨年度からコロナウイルス感染防止対策等であり、これまで普通に実施されてきた教育課程や学校行事などが感染対策を取りながらの実施が求められ、行事の延期、縮小しての実施、もしくは中止を余儀なくされています。

このような中、第七二回全九州中学校長会研究協議大会沖繩大会は、令和三年八月に那覇市で開催を予定しておりましたが、本年度がスタートしてもコロナウイルスの感染状況は収束に向かうこ

とが見込めない現状から、研究協議会を中止として、大会要録の発刊をもって誌上発表とすることとしました。

前回の平成二六年の第六五回全九州中学校長研究大会を天候不良で中止した経緯があり、今回は是非とも開催したいと意気込んでいたところでありましたので落胆は大きいものであります。

しかし、各分科会の提案の内容については冊子として発表できたことはとても良かったと思います。

このような年度でありましたが、国の動向を見極め、学校教育の課題や在り方等、迫り来る教育改革の波を受け止めるため、全国や九州の各校長会との連携をとおして諸資料の収集、先進県における諸施策の実施状況等の共有を図り、本県各地区校長会へと繋ぎ、県内各学校が円滑に教育活動が推進できるよう取り組めたことに会員をはじめ各関係団体に深く感謝を申し上げます。

### 二 全国・九州理事会をとおして

今年度も当初から計画していた理事会等がオンラインでの開催となりましたが全国・九州各県代

表との懇談の機会を得ることができました。「新型コロナウイルスから一年経過後の学校経営の現状及び課題と工夫ある取組」、「学校における人材確保と人材確保の課題と工夫」、そして、「一人一台タブレット活用についての課題及び実践事例と工夫事例」について推進状況に重きを置いた情報交換会が開催され、いずれも有益な情報共有の場となりました。

特に、「新型コロナウイルスから一年経過後の学校経営」としては、九州各県とも計画性のある教育活動の展開が困難であること、生徒同士、教員間の人間関係の希薄化といったことが共通した課題であることが報告されました。また、「学校現場における人材育成と人材確保」については、本県以外の九州地区では、教員採用試験の倍率が二倍いかない県などがあり、その県では教育実習生に対して学校・教員の魅力などを丁寧に説明し、応募への呼びかけなどを行っているようです。また、管理職試験については、ほとんどの県でなり手が少ない状況にあることがわかりました。教員採用試験や管理職試験にしても魅力ある教員、やりがいのある管理職など働き方改革を充実させて取り組む必要があることが確認されました。そのほか、GIGAスクール構想についての事例の共有化や学校経営に活かす視点での話題があり充実した理事会成为りました。

このことを踏まえ、これまで取り組んできた本県校長会の活動の成果と更に協働、共有の深化を図り、新たな課題へ一丸となって対応をする校長会の役割が必要不可欠であり重要となります。学校教育の共有された理念をもとに邁進する校長会の更なる発展に互いに取り組んで参りましょう。

### 三 県小学校長研究大会（那覇大会）

第六二回沖縄県小学校長研究大会那覇大会が、「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」のテーマのもと浦添市のアイム・ユニバース てだこホールにて開催する予定でありましたが、先般のコロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き一堂に会しての大会は開催することができませんでした。

これまで準備を重ねられた平敷兼栄小学校会長をはじめとする那覇地区会員の皆様には中止という苦渋の決断にも関わらず、細かな心配りを頂き心から感謝いたします。また、発表者として割り当てられた各地区の校長先生方には多くの時間を割いて頂きました。どの分科会においても、それぞれの学校課題を明確にした研究の成果を発表し実りある協議会ができたものと思います。

誌上发表となりましたが研究の内容は、校長としての「理念と指導性」「学校経営者としての使命感」が今後繋がる重要な役割を示すものであり、本来の研究大会の意義や趣旨を達成する役割を十分に果たせたものと確信しております。研究に携わった多くの会員に敬意を表します。

### 四 本年度の活動

#### (1) 地区教育懇談会

地区教育懇談会は、各地区校長会役員と県校長会役員が、各地区の教職員の処遇や諸条件の整備等の課題を共有し、学校教育に資することを目的に実施しています。

今年もコロナ禍によるオンライン会議や人数制限や縮小を余儀なくされながらも各地区校長会の配慮により六月から七月にかけて懇談会を実施す

ることができました。

各地区の校長先生方からは日頃からご苦勞されている現状の把握と課題解決への方策について協議を交えた有意義なものとなりました。

地区懇談会から得られた情報は、県校長会教育行財政部がまとめ、役員会で議論を重ねたあと、「校長会と行政との連絡会」において要請したり、大学との関連については「公立学校教員育成協議会」で取り上げ、解決に向けて取り組みました。

#### (2) 校長会と行政との連絡会

校長会と行政との連絡会は、県校長会と教育行政が緊密な連携を図り、学校の管理運営等に関して理解を深め、学校教育の一層の充実に期することを目的に年三回実施しています。

第一回は義務教育課からの行政説明、第二回は県校長会からの要望事項説明、そして、第三回は要望事項に対する教育行政からの回答があります。

本年度は昨年度までの項立てを整理し、従来の項立ての中から「県立学校と市町村立小中学校の連携に係る課題について」を新たに設定し、要望内容の整理統合を図り提出したところです。

しかし、人事や予算に係る法的条件整備等が追いつかず、県教育庁の関係各課には、ご苦勞されたことが伝わる連絡会となりました。今後とも連携を密に、課題解決に取り組んでいきたいと思えます。

#### (3) 研究活動

本会の研究活動は、調査研究部、生徒指導委員会、教育改革委員会、学力向上推進委員会が成果をまとめ「研究紀要 第20集」として発刊しております。多くの会員が活用し、各学校の課題解決に寄与する成果物です。

毎年県校長研究大会で、二つの研究報告を行っ

ていますが、今年も、研究大会が中止となったことから「研究紀要 第20集」の紙面報告となります。是非ともご参照頂き、学校経営の資料として活用して頂きたいと思えます。

### 五 おわりに

昨年度よりコロナウイルス感染症拡大防止のため、学校が休校したり、分散登校、午前中授業、それから部活動の制限や停止、グループ活動や声を発する学習活動の制限、友達との会話などで楽しいはずの給食時間の黙食、それになんといっても修学旅行の延期や縮小など、ほんとうにいろいろなことを校長として、周りの意見にも耳を傾けながら、最終的には校長が判断し学校運営していかねばならない状況となっております。これほど、校長のリーダーシップが求められている時代はないのではないのでしょうか。

さらに、学校においては、教職員の働き方改革の推進が叫ばれ、その取組の充実も課題の一つとして対応していかなければなりません。

このような時代だからこそ、私達、校長は「チーム校長会」として互いに連携、協力しながら対応していくことが大事になっていくのではないのでしょうか。

最後に、来年令和四年度の本県小・中学校研究大会は島尻大会となります。充実した実り多い研究大会が実施にできるよう準備を重ねて参りましょう。三年ぶりに参集しての研究大会になることを願っております。

これまで関わり、支えて頂いた校長会役員や事務局の皆様をはじめとする全ての会員の皆様に感謝し、令和三年度のふり返りとします。

## 特色ある学校づくり



# 魅力ある学校づくりは、 協働の職員体制づくりから

豊見城市立座安小学校 校長 具志直哉

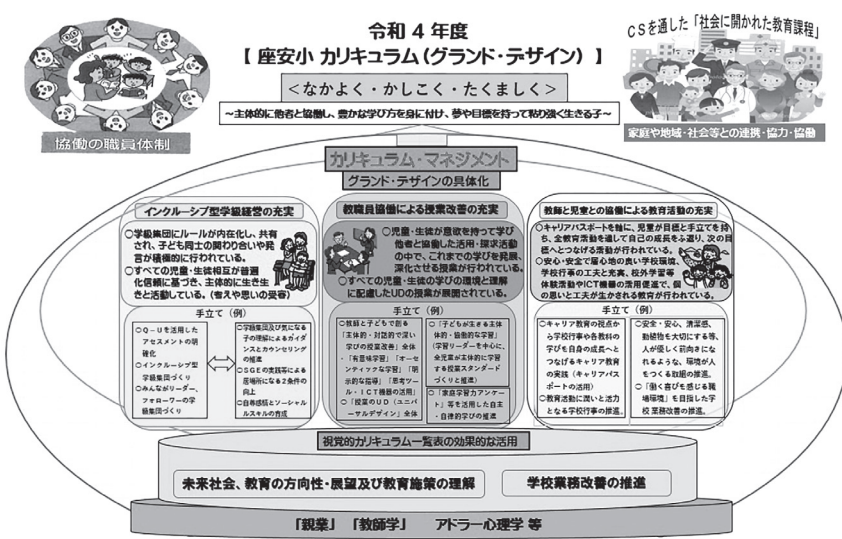
### 一 はじめに

本校は、明治四十一年に創立されました。本島南部に位置し、那覇市、糸満市に隣接した豊見城市にあります。令和三年度は、創立百十三周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。

学校周辺は、野菜や熱帯果樹栽培が盛んで、農村地域の風景も広がっています。埋め立て地の豊崎には高層住宅、アウトレットモールや大型電気店などが建ち並び、都市化が進んでいます。

今年度の児童数は四百九十六名、二十二学級で、児童は、明るく素直で働き者です。保護者も学校教育に協力的でPTA活動も活発です。（今はコロナ禍の中、思うように活動できず、うずうずしています）

本校のキャッチフレーズは、「元気に登校！笑顔で下校」、学校教育目標は「なかよく（徳）・かしく（知）・たくましく（体）」を具体化し、「主体的に他者と協働し（徳）、豊かな学び方を身に付け（知）、夢や目標を持って粘り強く生きる子（体）」としています。下段に掲載したポスター絵は本校のグラウンド・デザインです。目標に迫るため、徳・知・体ごとの方策を中央部分に三つの柱として明記しました。まず最初に、この柱を推進する組織体制から説明したいと思います。



### 二 協働の職員体制づくり

特色ある学校づくりは、職員の特徴ある

アイディアを生かしていける体制づくりから学校教育目標の徳知体、三つの柱の実現を目指し、令和三年度から三つの部会からなる新たな組織体制を編成しました。方針として左口内を全職員に示し、伸び伸びと自分たちの意見を交流させ、より良いアイディアを迅速に教育活動へ生かしていけるようにしました。これにより、児童が教師役となり授業を進める「座安小スタンダード」の授業改善が進み、家庭学習力アンケートによる家庭でも自ら学ぶ力を育成する取組と連動させるなどの実践が展開されています。

○各部会の長へ各部会で協議する実践事項等への決定権を与えることにより、各部会の責任・使命感と推進力を高める。（校長への伺い無し）

校長・教頭 ⇄ 各部会 ⇄ 全職員との報連相については、以下の二つの方針を示し、風通しが良く、理解と納得の上、全職員が協働で取り組める体制づくりを目指しました。

○原則として企画委員会の前後に「拡大教務会」（校長・教頭・教務及び各部会の長が参加する会議）を開き、校長等との報連相確を図る。  
○各部会で決定した実践事項については職員会議等で、確実に共有する。

また、各部会の長へ決定権を与えていますが、各部会が目指す児童像は明確に共有されており、学校評価の中から各部会の評価指標を設定しています。ですから評価指標をもとに各部会がマネジメントサイクルを図っていきますので、校長の経営方針は各部会の中に着実に生きています。

4 企画委員会組織図 (取組内容と評価指標等)



各部会を簡単に紹介します。

【A部会：元気に登校、笑顔で下校部会】生徒指導主任(主)、教育相談担当(副)を長とする。「インクルーシブ型学級経営の充実」に向けて協議し、具体的な取組を計画推進する。

【B部会：豊かな学び方を身に付け、主体的・協働的に学ばせる部会】学力向上推進主任(主)、研究主任(副)を長とする。「教職員協働による授業改善の充実」に向けて協議し、具体的な取組を計画推進する。

【C部会：学校教育・環境に選いと夢や目標を与える部会】教務主任(主)、特活(キャリア教育)担当(副)、

三 ぬぐす授業像・学びの姿

先ほど軽く触れた「座安小スタンダード」の授業改善について紹介します。

令和三年度から校内研テーマを「子どもが生きる主体的・協働的な学び」児童が学び方を身につけ、児童主体で展開していく授業の追求」とし、児童二人が輪番で学習リーダーとして教師役を務め、児童だけで展開していく授業づくりを

四 おわりに

職員に伝えたいことは、①教育の方向性を具体的に示し共有すること ②日々先生方が生かされること ③教育の社会貢献を感じ、やりがいを持って取り組むこと。一人一人が生かされたやりがいがあり良い学校づくりにつながりますように。

原則、右のような8つのシラバスで学習リーダーが進めていきます。慣れてくると学習リーダーはシナリオを見ずに学級の仲間と相談しながら工夫して授業展開していきます。児童は学び方がわかっていくので主体的かつ仲間と協働的に授業が進みます。教師はゆとりを持って授業を見守り、中間指導を充実させます。個別指導が充実して全員がわかる授業が実現できているように感じます。

この授業を続けていると、係や当番活動、学校行事への子ども達の主体的で意欲的な活動にまで波及していきます。

もう一つ、「家庭学習力アンケート」による自ら学ぶ力の育成については、書籍、田中博之の編著「家庭学習アイディアブック」を元に、実践しています。

- 1 問題の提示
  - 2 問いをもつ
  - 3 めあての設定
  - 4 見通し
  - 5 自力解決
  - 6 集団解決
  - 7 まとめ
  - 8 振り返り
- 行っています。教師は時折助言を加えたり、終盤のまとめ時に各教科の見方・考え方を明示的に概念化して指導します。東京から講師(西留安雄氏)を四月、九月(コロナ状況悪化で中止)、十一月に招聘し、研究と実践を行ってきました。授業は、

## 特色ある学校づくり



# 特色ある三大取り組みで 知徳体をバランスよく育む

宮古島市立下地中学校 校長 濱川 成 共

## 一 はじめに



本校は、一九四八年（昭和二十三年）四月に当時の下地村唯一の村立中学校として創立され、二〇〇五年に下地町・平良市・城辺町・伊良部町・上野村が合併し宮古島市が誕生し市立下地中学校となり二〇二一年度で創立七十四周年を迎える。

今年度の生徒数八八名、教職員数一三名の小規模校である。今年二三周年を迎える台湾国際交流「国際」や与那覇湾のマンングローブ調査を通じた環境教育「環境」、学校農園を活用した農業体験学習「絆」、フューチャースクールのベースにしたICT機器「情報」を活用した授業の実践、PTAの協力「協働」で全校生徒が四七・四キロメートル歩く強歩大会「健康・体力・精神力」等、特色ある教育活動に取り組んでいる。



## 二 学校経営

- (1) 学校目標 「豊かな心を持つ生徒」「自ら学ぶ意欲を持つ生徒」「健康でねばり強い生徒」
- (2) 行動指針①自立・②絆・③貢献
- (3) めざす生徒像
  - ①自他に優しい生徒
  - ②主体的に学び教え合う生徒
  - ③心身ともに健康で粘り強くやり抜く生徒
  - ④自ら考え、責任を持って行動できる生徒
  - ⑤勤労・奉仕をいとわず、貢献できる生徒



## 三 具体的取り組み

- (1) 全職員で取り組む学力向上  
本校は、全職員で共通理解の元、RPDCAサイクルで組織的に計画的に継続的に取り組んでいる。喫緊の課題である学力向上においても生徒一人一人の学力向上に管理職、教員、養護教諭、司書、事務職員等、全職員が各職務分掌の中で取り組んだ。
  - ①各種調査から生徒の良さ・課題を共通理解 保護者アンケート実施、沖縄県学力向上We bシステム、全国標準学力検査、全国学力学習状況調査の学力調査・生徒質問紙等で実態把握、学校・生徒個々の全体としての取り組みをまとめ学校の共通実践をしている。
  - ②学校経営計画等の共通理解  
学校ブランドデザインは学校経営案を基に校歌をモチーフにして図式化、さらに保護者の思いも取り入れた学校経営構想案は、全職員が学校運営に参画でき当事者意識を持つよう全職員に回覧し加筆・修正した後に職員会議で共通理解を図った。
  - ③教職員評価システム  
校長は全職員が記入できるよう申告書に学力向上推進に関する事項を配列する。面談で、その課題解決に向け、職員が個々の校務分掌の中でどう処理していくか助言する。
- (4) 今年度の学校経営目標  
「心身ともに健康で 目標を持ち 主体的にやり抜く生徒の育成」
- (5) 重点的に育成を目指す資質・能力  
「聴く力、やり抜く力、伝える力」

#### ④ 生徒指導委員会

各委員会等に参加し同僚性溢れる職員集団づくりに努めると共に、状況把握を行いその対応策について助言する。

#### (2) 台湾国際交流（トライアスロン交流会、漢口國民中學受け入れ・訪問）の実施

##### ① 【目的】

○本校の生徒を海外へ派遣し広く海外での研修体験を通して将来国際人として活躍すべき感性と教養を育てる。

○派遣生徒のみならず、本校全生徒で関わっていくことで、言語活動の充実や向上に関する機会に資する。

○漢口國民中学校との国際交流を通して、広い視野を持ち、異文化を理解する態度の育成を図る。

○国際社会において、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る。

##### ② 【方法】

これまでは、受け入れを隔年で七月中旬に四日間行い、台湾への訪問は毎年八月上旬六日間行い派遣先として台北市観光、台中市ホームステイ（三泊）、姉妹校である台中市漢口國民中學への学校体験、中華民國教育部表敬訪問、中琉文化協会表敬訪問など行っている。

参加対象者は「下地中学校の生徒であること。昨年度受け入れを行った生徒が参加希望する場合には優先的に派遣している。台湾の生徒の受け入れが可能なこと（交換留学制度）。台湾文化に興味・関心があり参加意欲生活・学習態度が好ましいこと」としている。

台中市漢口國民中学校と本校の国際交流は今年で二三年目を迎える。しかし、令和二・三年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、台湾の生徒の受け入れ、本校生徒の台湾訪問の中止が決定した。

##### ③ 令和二年度の取り組み

・漢口國民中学校の卒業式に合わせて、本校の全校生徒で動画を作成し、祝福メッセージを届け式中に披露した。

・祝福メッセージのお礼で漢口國民中学校の生徒・職員からクリスマス及び新年を祝うメッセージカードが届く。

④ 令和三年度  
・リモート台湾国際交流の実施

（お互いの学校や地域についての紹介、小グループに分かれての自己紹介・フリートーク）

③ 強歩大会

本校では、一九八〇年に始まり今年度で第四十二回を迎える強歩大会が、毎年、十二月にねらいを「ア…学級の目標やスローガンの達成に向けて、協力し合ったり、互いに励まし合ったりする イ…自己の目標を設定し、目標達成に向けて自主的に取り組む ウ…最後まで粘り強く歩く」として開催されている。

① 競技方法

競技時間は、八時三〇分〜十七時の制限時間（八時間三十分）とする。コースはA、B 次の二つを設定し、生徒に選択させる。A…下地中学校・東平

安名崎（四十七・四キロメートルコース）B…下地中学校・城辺小（二六キロメートルコース）↓昼食場所



間（八時間三十分）とする。コースはA、B 次の二つを設定し、生徒に選択させる。A…下地中学校・東平安名崎（四十七・四キロメートルコース）B…下地中学校・城辺小（二六キロメートルコース）↓昼食場所



#### 四 おわりに

生徒はとも明るく素直で優しく、何事にも一生懸命に取り組み、主体的に物事に挑戦できる生徒が多い。

全職員、意欲的で積極的に創意工夫し授業や行事に臨み、生徒たちが将来持続可能な社会の創り手として逞しく育つよう、日々熱心に努力している。

また、本校には、昨年、校内コンテストで誕生したイメージキャラクター「となん」があり、みんなの夢や希望が叶うよう応援している。



明るく素直で頑張る生徒、生徒たちに愛情を持って寄り添い支える職員、とても協力的な家庭・地域に恵まれ校長として、充実した毎日を過ごさせてもらっている。



## 『伝わる』を意識して 「視覚に訴え、言葉で仕組む」

石垣市立大浜小学校 校長 仲 皿 涼 子

### 一 はじめに

本校は、今年百三十一年を迎えました。明和の大津波で壊滅状態になる等幾多の曲折を乗り越えた大浜地域に建ち、校長室に掲げられる大浜信泉先生の「巨木根深」の言葉通りに、根を深く持った巨木として生長している学校です。子ども達は、大浜村出身で八重山の英雄「オヤケアカハチ魂」と地域の伝統を受け継ぐ事に誇りを持って様々な行事に参加しています。「地域の子どもは地域で育てる」という地域の思いを大事に、保護者や地域の方々と連携して、教育活動を展開しています。現在、児童数三百二十名、職員数二十五名で、支持的風土のある学校を目指し、目標達成までの積み重ねの過程を合い言葉「チャンス・チャレンジ・チャンピオン」に込め、新しい自分発見とよさの自覚の取り組みを展開中です。

### 二 校長講話について

私は、講話をとても大切にしています。一番の魅力は、「褒める」「認める」「伝える」が容易にできることです。また、「学びを支える力」や「心の使い方」、「めざす学校づくり」等の方向性を明確に示し、共通認識の下で浸透を図ることもできます。捉え方や行動へのヒントをちりばめ伝える

事で、子ども達や教職員の意識を変えチャレンジ意欲を引き出す貴重な弾みの場と捉えているからです。私にとっては、ストーリーや演出、伝わる工夫のスキルアップの場であり、反応は評価です。校長講話は、子ども達の、教職員のそして私自身の自己肯定感をも上げてくれる幸せな時間と云えます。

### 三 校長講話に臨む際の心かげ

- 【講話のコーディネート】
- 「伝わること」を意識して構成する
  - ・ 発達段階での伝え方を意識し三日間を設定
  - ・ 映像や小道具と話し手の一体化を意識する
  - ・ 「見たくなる」映像や小道具を工夫する
  - ・ 「聞きたくなる」テンポを大事に話す
  - ・ 伝えたいことをどの学年でも分かる言葉を使い、会話・対話の雰囲気をつくる
  - ・ どの講話であってもキーワードの言葉は毎回必ず入れ込む（繰り返しで浸透）
  - ・ 十五分で終えるストーリーにまとめる
  - 講話が生きる環境を設定する
  - ・ 児童・教職員の聞く姿勢をそらせる。
  - ・ 教職員の生の声を講話に巻き込む（児童の返答の仕方のスキルアップを狙う）

- ・ キーワードの言葉は、掲示での見える化や活動・授業の中で積極的に使ってもらえるようにし、浸透を図る。

### 四 講話の実際

講話は、「自己肯定感を高める学校づくり」を達成する為、「よさの自覚と自信を持つこと」への過程を示した合い言葉「チャンス・チャレンジ・チャンピオン」に繋がるように構成し、その時に必要な内容で講話に臨んでいます。

※「」は、講話に臨む際のキーワードです。  
【示す】四月 始業式



今日は、「新しい自分」に変わるチャンスの日でありみんな同じスタートラインに立つ日だと言うことを強調しました。心にある大なり小なりの負の壁を取り払い「ゼロからスタートできるわくわく感」を大事に行いました。夢に近づくには、どんな自分が変わりたいのかをイメージさせ、周りにある皆さんの「チャンス」に気づきつかむことで、「チャレンジ」に繋がりで、「チャレンジ」に繋がりで、やり続けることで「チャンピオン」になれることを具体的な例で示しました。特別な事ではなく、生活の中での「心の使い方」と「行動」の大切さを確認しながら浸透を図りました。

### 伝わる

作成物は、校長室前に掲示。「新しい自分」「チャンスをつかみ」「チャレンジして」「チャンピオンになる」と歌うようにつぶやいて通ります。子ども達のチャレンジの報告を日々楽しんでいきます。



【気づく】四月 一年生へ向けて



周りをうらやましがるカエルが、自分のよさに気づいていく「絵本」を映像での読み聞かせにメッセージを加えて行いました。入学は気持ちプラスの方向に変えるチャンスです。学校の一員として大事な存在であることや自分のよさを知り自信をもって楽しく学校生活を送ってほしいとの願いを込めました。

【伝える】

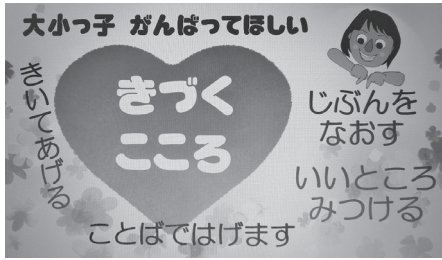
「人間がいい。いろんなことのできるから」の感想や得意なこと等披露する子が増えました。

【変える】六月

本校の相手意識の弱さを伝え、「気づく心」は自分や相手への「思いやり」を生み、行動するチャンスを与えてくれることを柱にしました。本市出身で、オリンピック代表選手「平良海馬投手」の心の使い方に触れ、「自分に気づくことで心が磨かれること」を紹介しました。子ども達と教職員の気づく心の実態を映像で対比し、「相手への思いやりの心」に対する認識の交換を図りました。

【伝わる】

「スリッパ並べ大作戦」が始まりました。「言葉」や「行動」で心の変化が見取れます。



【持つ】七月 終業式

「夢」を持つことが、「夢」の実に繋がることを東京オリンピックの夢舞台で戦っている選手達にスポットをあてて展開しました。「夢」に向かう過程は、「チャンス・チャレンジ・チャンピオン」の合い言葉と同じです。自分の興味や得意を見つけ、失敗しても粘り強く、諦めずに努力し続け、日本チャンピオンとなりオリンピックでは、次の夢に向かっていきます。



【見つける】十一月

「よさの自覚」は、よさに気づく所から始まります。自分では見づらく、認めにくい実態から、次のチャレンジは、「見つけて伝えてあげること」、伝えられたら「受け入れて自信にすること」を共通確認しました。よさに気づく言葉を紹介し、「自分にはいいところがある」と自信を持って言える支持的环境を充実させ、全体を巻き込んだ「見つける取組」とアプローチしました。

【伝わる】

一人一人のよさを見つめる「ハッピーフラワー」の取組が学校全体で展開されています。学級では、一人一人のハッピーフラワーが咲き、校内では、教職員や学校のハッピーフラワーが咲いています。見える化の効果でよさを見つけ伝えたいと行動する子ども達が確実に増えていることを感じます。



学校のいいところ



校長先生のいいところ

五 講話の反応

講話後には手紙や言葉で反応が返ってきます。教職員は、掲示や学級通信、言葉かけ等で反応してきます。職員室には、キーワードの言葉が表示されます。反応は評価と受け止め次に繋がります。【伝えるを感じる子ども達からの手紙】

いつも私たちのために、いい学校にしようと努力してくれてありがとうございます。校長先生が学校を大事にしてくれるので、私たちも勉強が楽しくできています。校長先生のいい所は、体育館に集まったりする時の発表です。理由は、映像に合わせてしゃべったり、話をはっきりいっているところからです。そして、挨拶が上手な所です。校長先生からのお話、次は何だろうっていつも思っています。早くお話を聞きたいです。

六 おわりに

「伝えること」を第一に、講話に臨んでいます。目指すは、映画(物語)のように見て聞いているだけで心に伝わる校長講話です。聴く側が見たくなる映像と聞きたくなる話になるように構成を工夫し、仕組んだ言葉からメッセージが届けられる校長講話になるよう楽しんで実践していきます。

## 校長講話



# 記憶に残る校長講話をめざして

名護市立東江中学校 校長 島袋賢雄

## 一 学校紹介

本校は、昭和五二年四月一日に名護中学校から分離、瀬喜田中学校との統合により創立された。場所は名護城の麓に位置しており、春になると桜が満開となり多くの見物客が訪れる。学校の近隣にはオリオンビール工場や樹齢三〇〇年といわれる国の天然記念物「ひんぶんガジュマル」、名護の聖人といわれた、名護親方「程順則」像があるなど地理的特色も豊かである。

現在、全校生徒二九六六名、教職員三九八名、PTA会員二一九世帯となっており、部活動は男女バスケ、ソフトボール部、男女ソフトテニス部、男女卓球部、女子バレーボール部、サッカー部、野球部、吹奏楽部、美術部があり、同好会としてハンドボール、水泳、バドミントンなどがある。本校の生徒は、全体的に人懐っこく素直である。その反面、自分の思いをきちんと伝えられず、互いの関係を悪化させるケースも少なくない。本校生徒は、入学時より既に「学力の二極化」の傾向を示す。確かな学力を身に付けさせ、将来に「希望」を持たせてあげることが、本校の大きな課題である。

本中学校区は、今年度からコミュニティ・スクールがスタート。学校と保護者、地域住民等が学校の運営に参画し、地域とともにある学校づくりを進めている。

## 二 校長講話について

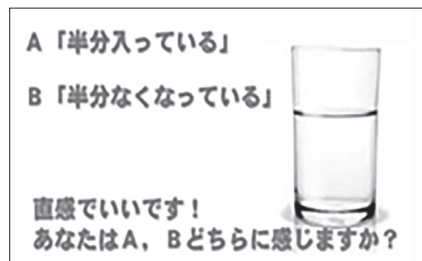
### —講話目的の明確化—

講話の作成にあたって、講話の目的が明確に示せるように作成することが大切だと考えている。講話は啓発的な側面を持つており、特に生徒に対しては、人格形成の基礎となることが目的であるので、話材として情動的な内容を多く含むように心がけ、目的にあつた事例を取り上げ、できるだけ目的に密接に関連付けるよう意識している。

儀式的行事では、学級担任とは異なる校長としての立場で話の目的性を持たせるように努めている。保護者や地域住民に対しては、子育てや地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）に視点を置いた講話の目的を設定した。言葉だけでは伝わりにくい生徒もいるためスライド等を使用して、視覚的に伝えるよう努めた。

## 三 講話の実際

### 〈ポジティブシンキング〉



この図を見ての感じ方は、今日の皆さん一人一人の心の状態によるもの。Aだと感じた人は、今日はどちらかというところ、「前向き（積極的・ポジティブ）」な気持ち。一方Bは、「後ろ向き（消極的・ネガティブ）」な気持ち。心の状態は自然なものだから「ポジ」と「ネガ」を行ったり来たりする。それが普通である。

日々の生活の中で、どちらの気持ちをもっと過ごそうとするかは、皆さんのこれからの長い人生の中でとても大事なことで、ネガティブな姿勢の持ち主は「できない」と考える。ポジティブな姿勢の持ち主は「限界」をみてしまい、ポジティブな姿勢の持ち主は「可能性」をみる。このように、ポジティブシンキングは、自分を励まし、集団に吹く風をゆるやかにし、あなたの友だちを助けることにもつながる。どんな人でも生きていればさまざまな出来事が起こる。このとき、それをどのように捉えるかはその人次第。ポジティブシンキングを実行する人は、物ごとの良い面を捉えて「良いイメージ」に結び付ける。皆さんも是非その習慣を身に付けようと投げかけた。

### 〈世界が賞讃した日本人の特性〉

東日本大震災の被災地では目立った犯罪がほとんどなく、数少ない配給にもきちんと整列して待つ姿には、日本人のマナーの良さ、心の強さを見



我々は人生を生きる上で大きな過ちをしてしまいがち。それは、過去と未来だけを見て、今を見ないことだ。人生とは点(今)の連続。過去と未来をつなげてしまおうと、口当たりのよいストーリーが生まれ、まるで人生はそのレールの上を走っているように錯覚してしまふ。未来をつくるのは「今、ここ」の自分だ



合わせている」

中国…「人に迷惑をかけるな」ことを常識とする日本人の特質に注目する」

このように世界は日本人の特性を賞賛した。日本が意識している道徳観や意識しない伝統的感覚なども含めた合わせ技によるものであり、日本がこれまで大切にしてきた「礼儀」と「気配り」を心がけていこうと語った。



た。なぜ日本では暴動も略奪も起きなかったのでしょうか？世界の国々は日本をどのようにみているのだろうか？

米国…「日本文化によるもので普段から礼儀正しさを心がけているからだ」「最悪の状況下でも他人を気遣うマナーを持ち

け！未来の自分のために、今という時間をしっかりと意識して、毎日の学校生活を送ろうと語った。

也は、自分について、人生について考え出す。偶然の出会いが、振り返って考えると、自分自身を成長させてくれた必然であったこと。出会いって大切ですね！この本は若い皆さんだからこそ是非読んでもらいたいと投げかけた。

**誤った劣等感**  
**他人と比較して、自分が劣っていると解釈すること**  
 ↓  
**自らの劣等感をある種の(言い訳)にしてしまふ。**

劣等感を持たない人は存在しないと言われるほど、それは全ての人々が苦しんでいる心の病である。そのため正しい劣等感を持ち、理想の自分になるために、まだ不足している部分があると解釈することが大切である。この劣等感とは人間の行動や成長を促すエネルギー源になる。一方、誤った劣等感を持つと、他人と比較して、自分が劣っていると解釈してしまう。すると自らの劣等感がある種の言い訳にしてしまふ。言い訳に使い始めた行為を劣等コンプレックスと言ひ、この劣等感とは行動や成長をとめてしまふ。その「誤りの劣等感」は、他人と比較することで発生する。これは「自分にとって他人は競争相手だ」という解釈をしていることが原因。「誤りの劣等感」を打ち消すには、自分を他人と比較するという思考癖を変えることが大事だと生徒に投げかけた。

不安定な心の状態で勉強するコツは、やる気になるまで待たないこと。やる気になるのを待っているのは、時間が過ぎていくだけ、とにかくやってみること。鉛筆を持つ、本を開く、ノートに書く…。やってみると自然に意欲がわいてくるもの。そのことは、心理学でちゃんと証明されている。あれこれ考える前に、「I am a machine」機械的に、まずは「行動してみよう」「やってみよう」と生徒に訴えた。

**やる気と行動の関係**

- やる気 → 行動(勉強など)
  - 行動 ⇨ やる気
- とにかく 行動してみる  
 「I am a machine!」機械的に行動

**やる気があとからついて来る**

まずは「行動してみよう」「やってみよう」と生徒に訴えた。

**四 おわりに**

「校長の話は長くてつまらない」「早く終わらなかなあ」というのが多くの生徒の感想だと思ふ。しかしながら、校長にとっては生徒と直接対話ができるかけがえのない一時でもある。その貴重な時間を「長かった…」の思い出で終わらせることだけはさげたい。そうならないためにも、「生徒にとつてわかりやすい内容であること」、「目線は常に生徒に向けること」、「時機にあった話の内容であること」、「できる限り具体化を図ること」等に留意し、記憶に残る校長講話をめざしていきたい。

---

---

沖縄県小・中学校長会会報第81号

発行者 沖縄県小・中学校長会

住 所 那覇市松尾1-6-1 (沖縄県教職員共済会館八汐荘3F)

電話 098-943-9747 FAX 098-943-9748

E-mail: oki-koutyukai2@kca.biglobe.ne.jp (事務局長)

oki-koutyukai1@kpe.biglobe.ne.jp (事務局員)

印 刷 株式会社 国 際 印 刷

電話 098-857-3385 FAX 098-857-3892

E-mail: kokusai@herb.ocn.ne.jp

---

---